

海フェスタしずおか —海の総合展に東京海洋大学ブース出展—

- ◆事業名 海フェスタしずおか
- ◆活動主体 清水港開港120周年記念事業実行委員会 事務局
- ◆対象者 一般
- ◆開催日 令和元年7月13日(土)～8月4日(日)
- ◆場所 [日の出会場] 清水港マリンパーク・マリンビル・マリンターミナル・日の出ふ頭
[江尻会場] マリナート・清水駅周辺
- ◆関連URL <https://s-kaiko120.com/umifes/>

目的

1995年(平成7年)に制定され、1996年(平成8年)から施行された日本の国民の祝日の1つである「海の日」。(祝日化される前は、海の記念日として昭和16年から制定。)

海は、地球上の7割を占める表面積で、世界の国々の中で「海の日」を国民の祝日としている国は唯一、海洋国日本のみです。

「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識する機会として、毎年、海にゆかりのある自治体で「海フェスタ」が開催されています。

「海フェスタ」は海に親しむ環境づくりを進め、広く国民の海に対する関心を喚起するとともに地域観光振興による、交流人口の増加が図られることによる、地域の活性化へつなげるものです。

概要(実施イベント)・成果

同フェスタは、清水港開港120周年事業として開催されており、かつて同地区に、旧東京商船大学の前身の一つである清水高等商船学校の一部があった(現在の水圏科学フィールド教育研究センター清水ステーション)ことなどから本学も参画したものです。

本学ブースでは、国の重要文化財明治丸修復に係る動画や微生物電池装置(元田教授)の展示や、同地区に関係の深いサクラエビの資源量調査に関する研究(甘糟准教授)、海底下の地下構造に関する研究(鶴我准教授)、海洋利用型電池システムに関する研究(元田教授)や清水ステーションの研究紹介パネルの掲示、その他関係資料等により、PRに努めています。

7月17日には、記念式典に臨席されていた秋篠宮ご夫妻が、本学ブースにお立ち寄りになりました。また、7月15日(月・祝)には、記念講演会のために来訪中のさかなクン(本学名誉博士・客員准教授)にも立ち寄っていただき、参加者とともに大いに盛り上がりました。

期待される効果

本学が、海フェスタしずおかに参画・ブース出展し、本学の紹介、情報発信、本学が取り組む教育研究や最新のプロジェクトについて発信していくことにより、「海」に関して、非常に多くの皆様の海に関する理解・関心の向上につながり、次代を担う子供たちを海にいざない、海洋環境の保全、海洋産業の振興につながることが期待されます。



清水ステーション主任 元田教授



さかなクンと甘糟准教授(右)、児島研究推進課長(左)